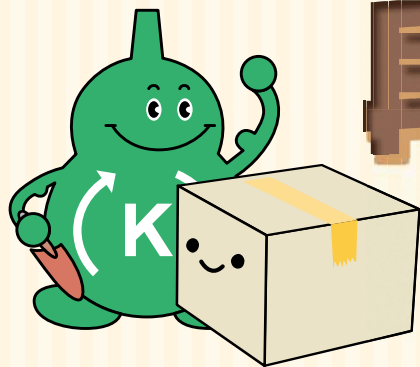




段ボール コンポスト

一生ごみを活用した
エコライフ始めませんかー

段ボールコンポストって？

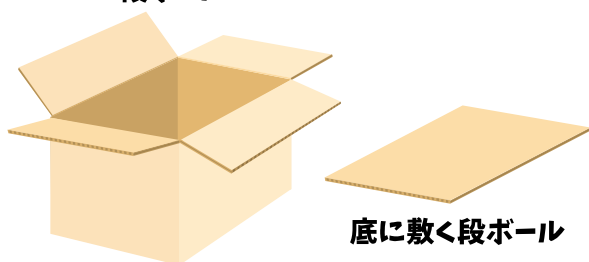
段ボール箱を利用した生ごみ処理容器で、段ボール箱に土壌改良材を入れ、微生物の力によって生ごみを分解し、堆肥が作れます。

段ボールは通気性がよく、生ごみの水分を逃がしたり、発酵に必要な空気を通すのに適しています。においも少なく、場所も多く取らないので、集合住宅のベランダでも取り組むことができます。



● 基材セット ●

段ボール



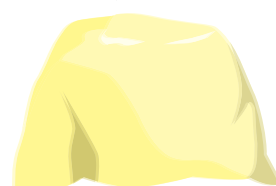
底に敷く段ボール

基材

- ・ピートモス15ℓ
- +
- ・もみ殻くん炭10ℓ



カバー



段ボールコンポストを
置く台



※段ボールコンポストをはじめるための基材セットを500円で販売しています。
草津市 資源循環推進課（クリーンセンター内）TEL.(077)562-6361 FAX.(077)566-1694

● 準備するもの ●



ゴム手袋

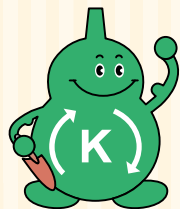


移植ゴテ



紙テープ

ごみ問題を考える草津市民会議 段ボールコンポスト部会



段ボールコンポストをはじめよう！

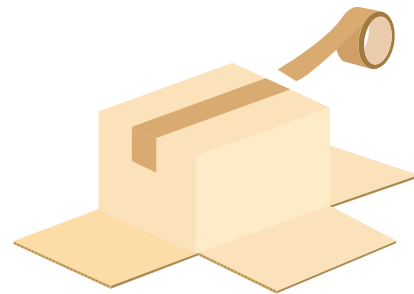
ステップ1 使い始める前に、ひと工夫！

①段ボール箱の継ぎ目を紙のテープで塞ぐ。

※継ぎ目から虫が侵入して、卵を産みつけるのを防ぎます。



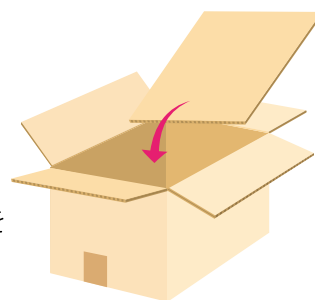
布・ビニール製テープは通気性が悪くなります。
紙テープがオススメ！



②耐久性確保のために、段ボール箱の底に段ボールを一枚敷いて補強する。



更に、段ボールの間に新聞紙などを敷いたり、
板段ボールとの隙間をテープで貼る方法もあります。



③ピートモスを15ℓ、もみ殻くん炭を10ℓ投入し、よく混ぜ合わせカバーをとりつけます。

ステップ2 どこに設置するの？

①雨にあたらないところに置きます。

ポイント

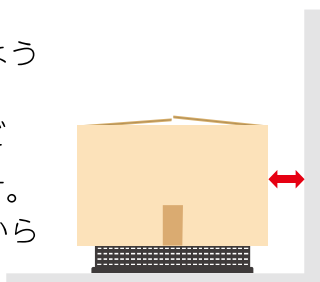
段ボール箱が水に濡れないようにしてください。

例) ベランダ、軒下、キッチンなど

②湿気のこもらないところに置きます。

ポイント

通気性をよくするため、壁からも離してください。



- ・カバーをししないと、虫が発生する原因となります。発酵時には、コンポスト内が50℃を越えるため、ほとんどの虫は死滅します。
- ・どうしても虫が気になる場合は、基材を黒のビニール袋に入れて、1~2日天日干しすると熱で死滅します。
- ・カバーは通気性のあるものを使用します。

ステップ3 さあ、投入してみよう！

①生ごみを投入する前に、中の基材（ピートモス+もみ殻くん炭）をよく混ぜ合わせて、全体に空気を送り込みます。

②基材の中心に穴を掘り、生ごみを投入します。

ポイント

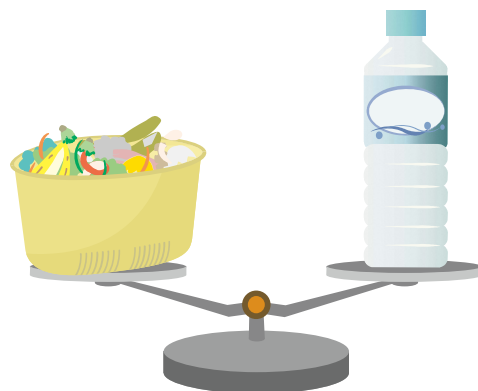
1日の投入量の目安は500g程度。（ざる1杯程度）
生ごみは小さくしたほうが、分解が進みやすくなります。
また、投入開始時に米ぬかを入れると発酵を促進します。

③投入したら、上から基材を被せます。

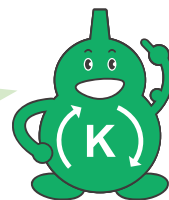
ポイント

投入後は混ぜないでください。

④しっかりと被せたら、必ずカバーをします。



500gは500mlのペットボトル
1本ぐらいの重さです！



ステップ4 分解しているかな？

○発酵分解はすぐには始まりません。1～2週間の間生ごみを入れてかき混ぜることを繰り返すと分解が始まります。

ポイント 分解が始まると、温度が上がり50℃を超えるようになります。(置く場所や気温によって異なります。)

○生ごみをいれなくても基材中の微生物は酸素を必要とするため、**1日1回**かき混ぜることが望ましいです。(毎日できなくてもOK)

○寒い季節などは外気が低いため、分解が遅くなることがあります。

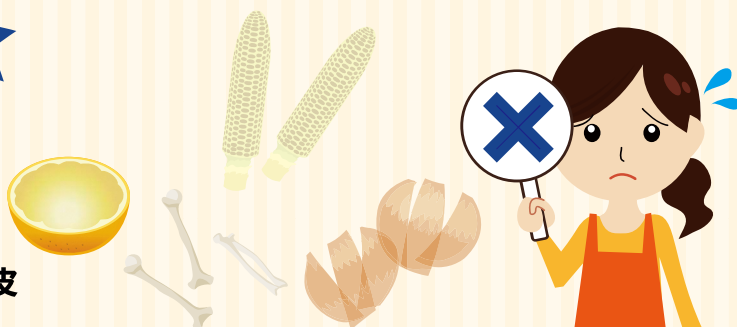
ポイント 温度が上がらない場合は、油かすや使用済みのてんぷら油(100cc以下)、米ぬかなどを入れると発酵分解が早まります。



注意!!

分解しにくいもの

- 鶏や豚の骨
- たまねぎの皮
- とうもろこしの芯
- 塩分が多いもの
- 防腐剤の付いた果物の皮



ステップ5 いつまで分解するのだろう？

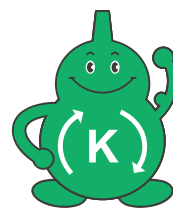
○毎日500gを投入している場合は、およそ3～4カ月間分解されるので、その間は投入できます。

○生ごみ投入終了の目安は？

- ☐ 生ごみを投入しても分解が遅くなった
- ☐ 基材が黒くなった
- ☐ 水分が多く、ダマができるようになった

- ☐ 温度が上がらなくなった
- ☐ 全体的にベタつきが出てきた

ポイント 寒い季節は温度が上がりにくく、分解が遅くなるので注意！



ステップ6 上質な堆肥を作るために熟成させよう(生ごみ投入終了後)

①週1回1～2ℓの水を入れ、かき混ぜます。
これを約3週間行ないます。

②水分がなくなり、サラサラの状態でアンモニア臭が無くなったら堆肥の完成。

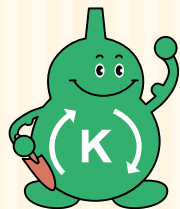
ポイント 分解されていない大きな塊が残っている場合には、取り除いてください。



熟成の必要性

段ボールコンポストへの生ごみ投入を終了した時点では、堆肥ではありません。

未熟な堆肥を土の中に入れると、土の中で熟成がはじまり、植物の根を傷めることがあります。



仕上げと出来た堆肥を活用しよう!

ステップ7 出来た堆肥を使ってみよう!

- 濃度の高い堆肥ですので、配合比は「**堆肥1：土3**」が目安です。
- 堆肥を使わない場合には、ビニール袋に入れて日陰において、保存してください。

プランター・植木鉢

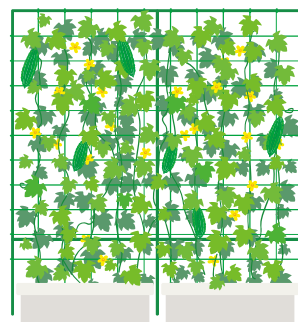
- 目 安 …… プランターの5分の1程度
- 種まき/苗植え …… 2～3週間おいてから行なう

畑

- 目 安 …… 1㎡に1～2ℓ (1～1.5kg)
- 種まき/苗植え …… すき込み2～3週間以上おいてから行なう

緑のカーテンにも利用

緑のカーテン（ゴーヤ）づくりは、肥料をたくさん消費します。
1ヶ月に2～3回程度は施肥します。（肥料の成分により多少異なります）



生ごみ減量の2つのポイント

1.捨てる前に水を切る

焼却ごみは40%が水分であり、生ごみに限ると、約80%が水分です。この水分を減らすだけでも、ごみの減量に大きな効果があります。すぐにごみ箱へ捨てず、まずは水切りをするという少しの意識とひと手間が、ごみの減量につながります。



2.生ごみを堆肥に

生ごみを減らすには、生ごみを資源として再利用するのが一番です。段ボールコンポストは少しの手をかけるだけで、生ごみをすばらしい堆肥に変身させることができます。



段ボールコンポストで生ごみの減量に取り組む段ボールコンポスト部会員の感想

- ・野菜などを育てるための肥料を買う必要がなくなりました！
- ・自分で作った堆肥だから安心して野菜が美味しく感じます。
- ・生ごみの減量につながって、環境意識が高まりました！

平成30年4月作成

【問い合わせ】 ごみ問題を考える草津市民会議

草津市 資源循環推進課（クリーンセンター内） TEL.(077)562-6361 FAX.(077)566-1694